

全体目標

がんにより死亡する人の減少
がんの年齢調整死亡率(75歳未満、人口10万人当たり)を平成29年度までに20%減少させる。

すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上

部会が担当する分野の課題と目標

【目標】がん対策の計画をするための基礎データが整って、活用されている

中間目標 罹患数と死亡数の比が1.5~1.7。25施設でQIが測定される。

指標 ①罹患数と死亡数の比(I/M比)
②QI(標準的な診療がどの程度行われているかの実行率)

測定方法 ①届出数と人口動態統計の死亡数の比
②必要な項目をカルテから収集

最終目標 罹患数と死亡数の比1.8~2.0。すべての施設でQIが測定され、がん医療の質の向上がはかられている。

指標 ①罹患数と死亡数の比(I/M比)
②QI(標準的な診療がどの程度行われているかの実行率)

測定方法 ①届出数と人口動態統計の死亡数の比
②必要な項目をカルテから収集

施策毎のアウトカム目標

【アウトカム1】

2013年3月までに、沖縄県保健医療計画における専門的にがん診療を行っている25施設で、地域および院内がん登録を行われ、カバー率が80%を超える。
<指標>
地域がん登録・院内がん登録実施施設数、カバー率、DCO

【アウトカム2】

2013年4月から、地域がん登録の情報がちくじ医療機関・行政・市民に届く。

【アウトカム3】

登録の重要情報に欠損がない入力ができている。
<指標>
5大がんのステージ入力率

【アウトカム4】
5大がんの詳細な情報が把握できる。

【アウトカム5】
がん診療の質が向上する
<指標>
QIの点数

施策毎のアウトプット目標

【アウトプット】
2011年9月までに地域および院内がん登録の実施調査を行う。
対象25施設

【アウトプット】
2012年3月までに、25施設をすべてで説明会を終了する。
対象7施設

【アウトプット】
2012年3月までに
①沖縄県でがん条例が成立される。
②協議会から要請される。

【アウトプット】
毎年演題を出し、部会委員が発表する。

【アウトプット】
2012年3月までに、それぞれが希望する形で登録情報が公開される。

【アウトプット】
2013年3月までに生存率(疾患別、施設別)の計測を行い、公開する。

【アウトプット】
年に4回開催し、200名の実務者が参加する。

【アウトプット】
2012年3月までに、拠点病院で中級者と指導者が、支援病院で初級者が誕生する。

【アウトプット】
2012年3月までに、拠点病院で5大がんについて、collaborative staging登録を行う。

【アウトプット】
2012年3月までに、拠点病院のがん診療の質の評価を行うためQIの測定を行う。

施策アクションプラン

【施策1】
沖縄県内の地域および院内がん登録の実施状況を公開する。

【施策2】
地域および院内がん登録を始めるにあたっての説明会を開催する。

【施策3】
地域および院内がん登録の実施を義務化する。

【施策4】
がん登録部会の活動を学会等で報告する。

【施策5】
地域がん登録情報の定期開示の方法を改定する。

【施策6】
生存率(疾患別、施設別)を公開する。

【施策7】
沖縄県内でがん登録研修会を企画・開催する。

【施策8】
国立がん研究センターの実務者研修に参加する。

【施策9】
拠点病院において5大がんのcollaborative staging登録を行う。

【施策10】
拠点病院においてがん診療の質の評価を行う。

ワークシート1で導き出された対策項目

【対策項目1】

地域および院内がん登録を実施するための情報提供体制の強化

【対策項目2】

地域がん登録作業の労に対する、医療機関への情報還元体制の整備

【対策項目3】

地域および院内がん登録実務者のレベルアップ

【対策項目4】

より詳細な院内がん登録の実施

【対策項目5】

がん診療の質の把握